2006年2月フィリピン・レイテ島地滑り災害における社会的対応

Social responses and recovery processes in the 2006 landslide disaster in Southern Leyte, Philippines

○ 矢守克也 ○ Katsuya Yamori

A devastating landslide hit Guinsaugon Barangay (village), St Bernard, the Southern Leyte in the Philippines on Feb 17, 2006, killing 154 and leaving nearly 1000 missing. The paper summarizes social responses and recovery processes during and after the disaster. The major objectives of this study are to examine, based on the two field surveys, the following three points: 1) geo-hazard mapping project and local disaster education for early warning, 2) governmental and non-governmental relocation support and job training for those who have lost houses and farm lands, and 3) personnel, material, and financial aid provided by both international and domestic organizations.

1.災害の概要

2006年2月17日午前10時30分頃、フィリピン国 南レイテ州の南部に位置する Saint Bernard 町の Guinsaugon Barangay (人口 1860人、バランガイは 同国の最小行政単位)で、大規模な地滑り災害が発生 した。地滑りは、同バランガイの後背部に位置する山 で発生し、この結果、死者 154 人、 行方不明者が 1000 人近くにのぼる大惨事となった。その後、同バランガ イおよび周辺の危険地域に住む住民多数が学校等の施 設に一時避難し(一部は現在も),さらに、その一部は、 他地域への恒久移住を余儀なくされている。この間、 地元自治体、フィリピン政府、日本を含む外国政府、 国内外の NGO 団体が、緊急援助物資の提供、仮設住 宅の設営と運営、恒久住宅の建設と管理、生活再建の ための職業訓練の実施、防災教育の推進、ハザードマ ップ作成など、さまざまな角度から被災地の復旧・復 興に関与している。

本災害の自然的特徴については、佐々他(2006)に詳しいので、本報では、同災害に対するフィリピン政府、地方自治体、NGO 団体など関係組織・団体の対応、および、被災者の生活再建の実態など、災害過程の人間・社会的側面に重点をおいて実施した2回の現地調査の結果について報告する。

2. 現地調査の概要

現地調査(現地視察とインタビュー調査が中心)を、 災害直後とほぼ1年後の計2回行った。

【第1回調査】(2006年3月25日~28日): 主た

る訪問先は、被災現場、フィリピン赤十字災害対策本部、ギンサウゴン町役場、避難所(Igresia Ni Cristo教会など) 被災者の移住予定地(写真左:2006年3月撮影) 第8地域防災調整会議本部などである。

【第2回調査】(2007年1月27日~30日): 主たる訪問先は、ギンサウゴン町役場、避難所(ABCホールなど)、被災者の移住地(Magbagacay-brgy 地区ほか、写真右:2007年1月、前年と同じ場所で撮影)、Plan Philippine (NGO) 現地事務所などである。





3.調査の焦点

- 2回の現地調査の焦点は以下の通りである。
- 1)緊急時の避難体制づくりとその基盤となるハザードマップ作成計画と防災教育の推進
- 2) 被災者、および、危険地域に住む住民の移住に 伴う住宅建設、職業訓練などの支援対策
- 3)外国、国際機関、国内外の NGO、教会などに よる被災地に対する支援と復興計画への関与のあり方

本調査は、京都大学防災研究所巨大災害研究センター「レイテ島地滑り災害調査チーム」(河田惠昭・矢守克也・横松宗太・奥村与志弘・阪本真由美・城下英行)が実施した。